

2004 年度 委員会活動成果報告

(2005 年 3 月 11 日作成)

委員会名	コンクリート充填鋼管構造小委員会	主 査 名：崎野健治
所属本委員会 (所属運営委員会)	構造委員会 (鋼コンクリート合成構造運営委員会)	委員長名：西川孝夫 主 査 名：三谷 勲
設 置 期 間	2002 年 4 月 ~ 2006 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画	本小委員会は、最新の研究成果を踏まえ、コンクリート充填鋼管 (CFT) 構造の特性を活かした性能規定型設計法に対応する設計法を提案すると共に、CFT 構造の耐火、施工等についても最新の技術を整理し、これらの成果を基に、コンクリート充填鋼管構造設計指針の改訂を行う。	
委員構成 (委員名(所属))	崎野健治(九州大学)、福元敏之(鹿島建設)、河野昭彦(九州大学)、菅野良一(新日本製鉄)、香田伸次(清水建設)、小林秀雄(日本設計)、津田恵吾(北九州市立大学)、平出亨(竹中工務店)、藤本利昭(安藤建設)、梅本宗宏(戸田建設)、川口 淳(三重大学)、陣内 浩(大成建設)、平島岳夫(千葉大学)	
設置 WG (WG 名:目的)		
2004 年度予算	280,000 円	

項 目	自己評価
委員会活動状況 (開催日・参加人数)	第 1 回：2004 年 5 月 27 日 (10 人) 第 2 回：2004 年 9 月 30 日 (8 人) 第 3 回：2004 年 12 月 20 日 (10 人) 第 4 回：2005 年 3 月 9 日 (9 人)
得られた成果	<p>(成果の具体的内容、成果の学術的・技術的・社会的価値、ホームページ等での公開の有無)</p> <p>「コンクリート充填鋼管構造設計施工指針」の改定作業を進めた。審議の結果、現行の指針を SI ユニット表示に改めると同時に、初版出版年度 (1997 年) 以降の研究成果を盛り込む改定作業 (ほぼ半分を終了) 以外に、第 2 編として設計法、性能検証法、施工法を追加することにし、内容の検討作業を行った。</p> <p>第 2 編の内容は、第 1 章 各種構造設計法、性能検証法の概要と適用法、第 2 章 許容応力度設計法、第 3 章 大地震時における必要保有耐力の検討法、第 4 章 大地震時に対する限界耐力計算法による性能検証法、第 5 章 大地震時に対するエネルギー法による性能検証法、第 6 章 充填コンクリートの調合と施工、である。</p> <p>「コンクリート充填鋼管構造設計施工指針」の初版が発刊されたのは 1997 年であり、この版はすでに絶版となっている。今日におけるコンクリート充填鋼管構造の普及を考えると、今回の指針改定の価値は高い。</p>
	委員会 HP アドレス：現在の所公開予定は無い。
目標の達成度	(当初の活動計画と得られた成果との関係) 目標の達成度はほぼ予定通りであるが、当初の目標 (計画) より作業内容が増えたため、当初の予定より 1 年間遅れる予定である。
その他評価すべき事項	